

平成27年度第2回旭市道の駅建設準備委員会 会議録

日 時：平成27年6月29日（月）午後2時00分
場 所：市役所3階委員会室
事務局：企画政策課
外部アドバイザー：(株)船井総合研究所

1. 開会

欠席（滑川委員長、土屋委員、菅生委員）報告

2. あいさつ

副委員長：早いもので、開業まであと3ヶ月半となりました。また、建設準備委員会も今回と8月の2回を残すのみとなりました。本日も各委員の皆様から積極的なご発言を頂きますようお願いいたします。

市長：本日はご多忙中のところご出席頂きありがとうございます。副委員長から話がありましたとおり、あと3ヶ月半あまりということで、開業が近づいて参りました。建設工事は順調に進捗しており、7月末には施設及び外構の工事が完了し、駐車場の舗装は8月末には完了する予定であります。10月16日（金）の竣工式、翌17日（土）の本オープンに向け、最後の仕上げの段階に入っているところであり、万全の体制を整えていかなければと改めて思うところであります。

本日の議題の中で駅長から詳しい報告があると思いますが、厚生労働省からの補助事業で、道の駅を拠点とした地方創生の取組として「地域の宝を探し・磨いて地域産物に新たな付加価値、新たな雇用創出」を目的に、旭市で地域雇用創造協議会を立ち上げたところであります。道の駅を拠点にしたモデルとなるような事業になることを期待しています。

旭市は県内一位、全国トップクラスの「食の産地」であり、どこにも負けない豊富な食材がそろっているのに、それを活かす場所が今までありませんでした。是非道の駅を拠点として、全国に発信していきたいと思えます。また旭市の観光拠点施設として、色々な観光巡りを計画していけたらと思えます。

本日も様々な意見やアドバイスを頂きたいと思えます。

道の駅主要施設ネーミング記入用紙について説明

※事務局より説明

①道の駅季楽里あさひのサブタイトル、②農水産物直売所、③バイキングレストランのネーミングのアイデアを皆さんから頂きたい。頂いたアイデアを参考に、①については市に一任、②と③については運営会社に一任し決定としたい。

各委員からの意見

市長：そもそもサブタイトルを作るべきか皆さんに伺いたい。

委員：①のサブタイトルは看板に出すのか。②と③についてもどのように出すのか。

事務局：サブタイトルは、パンフレットやホームページ等で、道の駅の名称の下に付け

て出す形になる。②と③は店の前や入り口の案内板等に出す。

委員：サブタイトルはあった方が良くと思う。

副委員長：サブタイトル及びネーミングは付けるということによろしいか。

委員一同：意義なし

3. 議題【道の駅運営に向けた検討項目】

(1) 道の駅の情報発信について

※事務局より説明

- ・情報発信の方法（デジタルサイネージ、HP、SNS等）について
→フェイスブックで登録所伝達式の様子等、情報発信を始めている。
- ・情報発信施設にタッチディスプレイ式のデジタルサイネージやタブレット端末等を設置して観光情報等を発信する。

※アドバイザーより説明

- ・道の駅のホームページのあり方、SNSとの連携について
→検索された時に多くの情報を与えられる情報発信となっていることが重要。
→ホームページ成功の3つのポイントとして、独自ドメインを持つこと、リンクを貼ること、写真等地域のイメージが付きやすいものを掲載することが挙げられる。

各委員からの意見

委員：多くの人が集まったとき、1人の人しか操作できないタッチディスプレイでどう対応するのか。また、防犯カメラは設置する予定か。

事務局：警備保障会社の警備も入るが、防犯カメラは施設の外だけで4箇所以上、店内については、売り場の全てをカバーできるように相当数設置する予定である。事務所に集中モニターを用意して万引きにも対応できるようにする。タッチディスプレイについては、タブレット端末を2台ほど置くようにし、込み合ったときに対応する。

委員：ホームページは業者に委託しているのか。

事務局：運営会社が業者に委託するようになるが、金額等の問題があるので、どこまで委託するのか今後検討していきたい。

委員：旭の場合は決して立地条件が良いという訳ではないので、ネット販売を視野に入れた方が良いと思う。そのためにも業者に委託するなどして、見やすいホームページを作った方が良い。

委員：道の駅のホームページに生産者のホームページのリンクを貼ってもらい、道の駅のホームページから生産者のホームページにいけるようにした方が良い。

事務局：生産者との連携を図りたい。また、道の駅のホームページを県の観光ページ等、他のホームページにリンクを貼ってもらうことを進めていきたいと思う。

副委員長：会社でウェブサイトの担当者が付くようになるのか。

事務局：経費のことを考えると、会社でウェブサイトの担当者を置いて、なるべく社員で更新をやれるようにしていく。

副委員長：情報を更新することは非常に大事だと思う。更新頻度のことを考えると、委

託で任せっきりにするよりも、社員でやった方が有利である。農産物直売館でも従業員が毎日フェイスブックを更新している。

(2) 地域資源を活用した飲食施設について

※アドバザ-より説明

・メニュー開発について説明

→お客を飽きさせないようにメニュー総数45品以上を目指す。フードコーディネーターと料理長の二人三脚でメニュー開発を進めていく。モニター会を開催して、地域の方に受け入れてもらえるメニューを開発する。またユーザーズクラブを並立して、モニター会とする方法も一つである。

各委員からの意見

委員：初歩的な質問になるが、自然食とは何か。

アドバザ-：健康的なというイメージで捉えてもらえればと思う。一般消費者がイメージする野菜を中心としたバイキングという定義になる。

委員：イメージには裏づけが伴わなければならない。健康食ということであれば、どういうものが健康に良いのかという裏づけが必要になる。

アドバザ-：基本的には地元の食材を中心としたメニューを提供することがコンセプトとなる。

委員：それが自然食の定義か。

アドバザ-：野菜を中心とした旭の食材を使ったメニューというのが定義になる。

委員：健康に良いと言われても、アレルギーを持っている方にとっては、健康的ではないものもある。

市長：旭産バイキングにしてはどうか。

アドバザ-：全ての食材が旭産のものにはならないと思う。

市長：バイキングをやることについて、チラシ等で情報を発信するのか。

アドバザ-：チラシ等で、地域の野菜、肉、魚を活かしたバイキングというような情報発信はした方がよい。今日は何々が採れましたというような情報発信は必要だと思う。

事務局：旭市道の駅は何でも揃うという特徴があるのでバイキングはちょうど良いと思う。四季の野菜をふんだんに使ったバイキングレストランだということをふれ込みにして、是非バイキングも道の駅の特徴の一つとして売り込んでいきたい。また自然食とは、保存料や添加物を使用しない料理という定義もあるようだ。

委員：自然食というのは、農薬を使わず育てた高価な野菜というイメージがある。また、自然の食材が健康に良いというのは基本である。何でも揃う旭ということを全面に打ち出した方がよい。

委員：旭流にしてはどうか。何か言われても旭流だと言える。

市長：今日出た意見を参考によく考えて決めて欲しい。

アドバザ-：モニター会とユーザーズクラブについてご意見があれば伺いたい。

市長：モニター会までにユーザーズクラブは間に合うか。

委員：市民の中から、道の駅を後押しするため、見えないところでもお手伝いするユー

ザーズクラブを想像していた。モニター会だけのものではなく、樹で言えば根っこの部分、地道に支えていくものだと考えている。モニター会の希望者はたくさんいると思う。

話は反れるが、自分の家が建つような思いで道の駅ができてくるのを見てきた中で、ウォーキングコースがあれば、ウォーキングしている人が寄ってくれるようになると思った。資金が必要と言われるかもしれないが、そういうときにウォーキングを愛する人達に声をかけて資金集め等の活動をするのが、私が想像していたユーザーズクラブである。

アドバイザー：モニター会で集まった人を中心として、モニター会後はユーザーズクラブとして活動してもらうことを計画している。ただ、モニター会とユーザーズクラブは別物だということであれば、モニター会は食について意見をもらうためだけの会とすることも可能である。

市長：オープン前にユーザーズクラブを設立するのか、オープン前はモニター会だけにするのか、どちらにするか。また、ユーザーズクラブはどのようなことをする組織なのか具体的に決めなくてはならない。経営のことまで意見が出せる組織にするのか、資金面はどうするのか等、決めなくてはならない事は色々あるわけだが、10月までに間に合うか。

事務局：ユーザーズクラブのことを含めて、駅長に説明をお願いします。

駅長：まずは、飲食の関係についてご報告させて頂く。アドバイザーからフードコーディネーターの紹介があったが、1メニュー開発するのに5万円かかるとのことだった。外部の声を聞くことは重要であるが、出来るだけ出費を避けたい。県の産業振興課で、メニュー開発を手伝ってくださる料理の先生を紹介していただき、5日間無料派遣してもらえらることになった。先生と話をする中で60品目ほどメニューを作ろうということになり、タレやドレッシングについても、旭市でこだわりをもって作ってみようということになった。ただ5日間だけではそこまでは難しいので、先生には、開業前に1週間泊りがけで来ると言ってもらっている。また先生から調理場を見せてもらいたいということで、厨房についてもアドバイスをしてもらえらることになった。

その他に厚生労働省の実践型地域雇用創造事業で、3年間で1億1千7百万円を頂いて、事業を実施することになっている。事業推進員ということで、職員を2名雇うことになっている。その他に3名、郷土食や特産品の開発といった実践的な仕事をしてもらうことになっている。また、外部から先生を呼んでの講習会もでき、1日あたり10万円くらいの予算を盛り込んである。バイキングについては、このようなお金を使いながら、外部からの指導を入れていこうと考えている。

また、県の産業振興センターから元気づくり活性化事業で300万円ほど支援してもらえらるような話を伺った。12月の土曜日、日曜日にイベントを行おうと考えており、そこに県がお金を出してくれるようだ。これを利用し、年の暮れにかけて、販売促進をかけていく。

最後に、ユーザーズクラブは、12月に行うイベントで、芸能人を呼んだときのご案内や接待など、従業員の手が回らないところを手助けしてもらいたいと思う。そういった面でユーザーズクラブには協力いただきたい。

委員：先が明るい話を聞いて良かった。ユーザーズクラブについての考えは非常に良いと感じた。ユーザーズクラブの人材を採用するにあたり、共通理解を作って呼びかけたい。

市長：今までに案は出たが、もっと具体的なものを作って、会社の方で取締役会にはかるべきだ。要綱の作成、人材の募集や採用等、色々やらなければいけないことがあるが、オープンまでに並行して事務局の方でやってもらいたい。

事務局：今回は要綱の案をお示ししたが、やり方や時期について会社と検討したい。駅長の話にもあった12月のイベントに向けて、検討させて頂く。

駅長：県と300万円の補助金の話をした際に、一つ提案させていただいた。旭市には旭中央病院のような医療というものがある。「医食同源」という言葉に「農」という言葉を入れ、「医食農同源」というものを提案させて頂く。旭市に来ないと食べられないような郷土食を提供させてもらう。例えば、豚肉が出ているレストランはあまりなく、豚肉の郷土料理を出してみてもどうか。大原幽学先生が作った「性学もち」なども考えている。また、病院に来なくてよくなるよう食事で直すといった視点を持ち、病院の先生方と連携をとりながらメニュー開発を行いたい。病院の先生一押しのものは高齢者が食べたがる。カロリーや栄養価の表示もしていきたい。

また、先日旭農業高等学校からも道の駅と連携したいという話を伺った。その他に米粉を普及したいという団体もあり、米粉を使ったケーキを作ったので道の駅に出したいという話があった。このような色々な方々がもっている技術を道の駅で発信できるような施設にしていきたいと思うので、何か情報があれば教えていただきたい。

次に正社員の募集状況と今後の予定について発表させて頂く。6月末を期限として広報やハローワークで正社員募集の呼びかけを行った。県外からの応募もあった。こちらの方は就職が決まったら旭に帰って来たいという方である。応募して下さった全ての方と面接して話を聞かせていただこうと思う。面接に関しては、私も真剣になって取り組みたい。7月1日からは、1ヶ月間パートを募集する。パート募集については、7月13日の午後に説明会を実施したいと考えている。また、勤務状況によってパート社員の方にも正社員になれるような道を用意するようにしたい。

最後に、実践型地域雇用創造事業について説明させていただく。今回の実践型地域雇用創造事業では、職員を5名雇う予定である。この5名の職員の方には、この事業で特産品を開発するなどして、それをきっかけに市内のどこかで就職してもらいたいと考えている。職員5名の雇用については、全額国から出してもらえるとということで、3年間で1億1千万頂く。これを道の駅と絡めて実施していきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

(3) その他

※事務局より説明

- ・ 8月建設準備委員会開催についてのお知らせ

→平成27年8月25日(火)午後2時 道の駅会議室

4. 建設現場の視察

- ・ 建設現場にて進捗状況を確認

閉会 17:00